

# 『国際理解と国際協力のための教育』

## としての我校のユネスコ活動』

毛野中学校 小川輝徳

昭和26年わが国のユネスコ加盟後、国際理解と国際協力のための活動としてユネスコ活動が民間に学校に活潑に行われてきたが、民間はユネスコ協力体を作り、学校は主として高校・大学において生徒会・自治会などにて平和運動として展開されたものである。

やがて昭和29年、国際理解と国際協力のための教育を目的としたユネスコ実験学校が東京教育大学附属中外6校が指定されて、世界における同種の25カ国約70の実験学校とともに活動が行われて、その成果はユネスコやその他国外の関係教育機関に報告され、又国内の教育関係者に広く公表して、今後の国際理解と国際協力のための教育の実践に役立てようとしている。

さて本校においては、学校教育の一環として国際理解と国際協力のための教育について夙に関心を寄せていたので、昭和29年にユネスコクラブを創設して、日本ユネスコ協会連盟の援助のもとに自の方法にてユネスコ活動を行い、生徒に対する国際理解と国際協力の涵養に努力を続けてきた。当足利地区においてユネスコ活動を行つている学校は、高校において、2校、中学において（足三中と毛野中）に過ぎないが、将来この種の活動を行う学校が続くことと、わが校のユネスコ活動を通じての国際理解と国際協力のための教育の実践記録を述べてみる。

### 「国際理解と国際協力のための教育」について

#### 1. 学校教育の現場において

教科指導と特別教育活動（クラブ活動）指導とはどちらに重点を置いて指導したら、より効果的であるか、比較して見る。

#### 1. 教科指導

学校教育の一環として、国際理解と国際協力を学習指導する教科としては主として、社会科・英語科・国語科其他が考えられる。

#### (a) 社会科

国際理解と国際協力とは歴史、地理、社会、政治、経済を通じてカリキュラムの中に採り上げることができる。

#### (b) 英語科

教科書にあらわれた英語国民の生活態度、風俗、習慣を解説する中で採り上げることができ

# 『国際理解と国際協力のための教育

## としての我校のユネスコ活動』

毛野中学校 小川輝徳

昭和26年わが国のユネスコ加盟後、国際理解と国際協力のための活動としてユネスコ活動が民間に学校に活潑に行われてきたが、民間はユネスコ協力体を作り、学校は主として高校・大学において生徒会・自治会などにて平和運動として展開されたものである。

やがて昭和29年、国際理解と国際協力のための教育を目的としたユネスコ実験学校が東京教育大学附属中外6校が指定されて、世界における同種の25カ国約70の実験学校とともに活動が行われて、その成果はユネスコやその他の関係教育機関に報告され、又国内の教育関係者に広く発表して、今後の国際理解と国際協力のための教育の実践に役立てようとしている。

さて本校においては、学校教育の一環として国際理解と国際協力のための教育について夙に関心を持っていたので、昭和29年にユネスコクラブを創設して、日本ユネスコ協会連盟の援助のもとに独自の方法にてユネスコ活動を行い、生徒に対する国際理解と国際協力の涵養に努力を続けてきた。

当足利地区においてユネスコ活動を行つている学校は、高校において、2校、中学において（足利三中と毛野中）に過ぎないが、将来この種の活動を行う学校が続くことゝ思い、わが校のユネスコ活動を通じての国際理解と国際協力のための教育の実践記録を述べてみる。

### 「国際理解と国際協力のための教育」について

#### 1 学校教育の現場において

教科指導と特別教育活動（クラブ活動）指導とはどちらに重点を置いて指導したら、より効果的であるか、比較して見る。

#### 1.教科指導

学校教育の一環として、国際理解と国際協力を学習指導する教科としては主として、社会科・英語科・国語科其他が考えられる。

#### (a)社会科

国際理解と国際協力とは歴史、地理、社会、政治、経済を通じてカリキュラムの中に採り上げることができる。

#### (b)英語科

教科書にあらわれた英語国民の生活態度、風俗、習慣を解説する中で採り上げることができ

る。又言語使用の面から直接的に国際理解と国際協力に入ることができる。

### (c)国語科

教科書の中で国際的な事柄、人物等について採り上げることができる。

### (d)其他

音楽科、図工科理科等においても、諸外国の人物、作品、発明発見等についても採り上げることができる。

## 2.特別教育活動（クラブ活動）指導

特別教育活動（クラブ活動）は次の諸点について有利である。

1. クラブは希望した者のみ収容できる。
2. 一教科に捉われない自由な活動ができる。
3. 学年、クラスを差別しないので、広く連繫がとれる。
4. 同一の興味と能力のある者が集る。
5. クラブ員の親睦、和合が計れる。
6. クラブ活動にて学習した知識を教科にも実際面にも応用することができる。

## 3.教科指導と特別教育活動（クラブ活動）指導との比較

学校教育の一環として国際理解と国際協力を学習指導する教科としては、主として社会科、英語科、国語科其他が考えられるが、この教育を実施するためには、各教科に含まれていないため、各個の教科に捉われない広い自由な教育が望ましい。従って一教科に偏しない特別教育活動（クラブ活動）の場において行つた方が適切であろうと思う。従って教科指導よりむしろ各種の利点を有している特別教育活動（クラブ活動）にて指導した方がより効果的であると考える。

## II 何故ユネスコ活動を取り入れたか

ユネスコには世界の平和に貢献しようとする大きな目標があり、これを達成するためには

- (1)人々の間に相互の認識と理解を深めること
  - (2)民衆の教育を盛んにし、文化を普及させること
  - (3)知識を深めたり、広めたりすること
- などを任務としている。

これは国際理解と国際協力のための教育に通ずるものである。従ってユネスコ活動を通じて指導するのが活動範囲は広く自由で一番効果的であると考えられる。

又「ユネスコとは何か」を教育するためには、中央のユネスコ機関（文部省・日本ユネスコ協会連盟）や地域のユネスコ機関（県教育委員会・市教育委員会・足利ユネスコ協会）などの援助、即ち資料・フィルム・展示物など貸与される便宜が与えられ、ユネスコ解説に力を添えることができる。こゝにおいて生徒達にユネスコを理解させ、次で協力することによつて国際理解を深めて、世界を眺める視野を広めさせ、国際協力に尽す心構えを与える。人間的には人類

を差別なく愛するヒューマニテイの精神を養い、世界平和のために尽力する精神を形成する。

## ユネスコ教育の実施について

従って本校においては、昭和29年4月より、等別教育活動（クラブ活動）にユネスコ・クラブを設けて、国際理解と国際協力のためのユネスコ教育を実施することにした。

### ユネスコ教育の実際

「ユネスコとは何か」についてユネスコ・クラブにて3週間（3時限）解説的な教育をする。

- 1 ユネスコの名称の由来
- 2 ユネスコの歴史
- 3 ユネスコと国連との関係
- 4 ユネスコの組織
- 5 ユネスコの目的と任務
- 6 ユネスコの行う仕事

### 教育

自然科学

社会科学

文化活動

大衆通報

人物交換

技術援助

- 7 ユネスコの国際機関団体との協力

（日本ユネスコ国内委員会資料による）

### ユネスコ・クラブの運営

（昭和30年度実施）

クラブ員 63名

内訳 男30名 女33名

1年 19名

2年 31名

3年 13名

### ユネスコ・クラブの編成

クラブ員を8班に分ける。

### 国際理解部

- 1 歴史班 班長 1名

		クラブ員	6名
2	地理班	班長	1名
		クラブ員	6名
3	音楽班	班長	1名
		クラブ員	7名
4	絵画班	班長	1名
		クラブ員	8名

国際協力部

5	国際班 (郵便友の会・海外文通)	班長	1名
		クラブ員	8名
6	英語班 (英会話・英語劇)	班長	1名
		クラブ員	15名
7	渉外班 (他校・ユネスコ連絡)	班長	1名
		クラブ員	8名
8	総務班 (庶務・会計)	班長	1名
		クラブ員	2名

顧問教師 1名

2. クラブの時間割 (毎週水曜日)

a・例	第一週	ユネスコ新聞の紹介	国連とユネスコの解説	英会話練習
	第二週	"	ユネスコの解説	英会話練習
	第三週	"	"	英文手紙の書き方練習及び宿題
	第四週	英会話の練習・英文手紙合評会・宿題清書		
	第五週	英文手紙発送 (アメリカ・メーン州・バンゴール市・ジュニア・ハイスクール)		
b・例	第一週	ユネスコ新聞の紹介	世界史の講義 (オリエント時代)	英会話練習
	第二週	"	" (ギリシア時代)	"
	第三週	ギリシア時代の彫像の鑑賞・西ヨーロッパの地理研究		
	第四週	西ヨーロッパ地理の研究・音楽鑑賞		

III ユネスコ展の開催

1学期に1回(2日間)ユネスコ展を校内にて開催する。

次の様な展示物を展示する。

- 1 ユネスコ会旗 (クラブ所蔵)
- 万国旗 (学校所蔵)

- 2 ユネスコ新聞・資料・文献 (クラブ所蔵)
- 3 「世界児童画私のお母さん」 100点 (ユネスコ協会連盟より借用)
- 4 「募集作品私のお母さん」 (ユネスコ・クラブにて募集作品)
- 5 世界各国の郵便切手 (郵便友の会より賛助借用)
- 6 世界各国の風俗・風景写真・ポスター (他校ユネスコ・クラブより借用)
- 7 世界人権宣言ポスター・国連ポスター (ユネスコ協会連盟資料)
- 8 外国の手紙と贈物 (クラブ員 所蔵)
- 9 世界の名曲をレコードにて会場内に流す。

#### 学校行事に積極的に参加

学校祭や文化祭に積極的に参加して、ユネスコ展を開催、異色ある国際的な雰囲気であらわし地域の人々や生徒達に世界を眺める窓を明け、国際理解と国際協力の実際を認識させる。

#### ユネスコ活動の実際

昭和32年ビルマ使節一行、地元山川町長林寺にバゴダ建立敷地の視察に来足した際、国際クラブとしてユネスコ会旗を翻えして長林寺門前にクラブ全員にて出迎えて、平和の使節に対して国際親善の誠をつくした。

#### ユネスコ・クラブの今後のあり方

ユネスコは、教育・科学・文化を通じての国際平和を目標として、何ら政治力を持たない地味な働きをしており、専ら「人の心の中に平和の砦を築く」活動に専念して、あらゆる緊張を緩和することに努めているものである。従つて我ユネスコ・クラブも活動範囲は広くあらゆる文化クラブ活動に関連があると思われるので、その活動を余り活潑に行えば華々しくなり、他クラブの活動に抵触する虞れがある。依て校内の他クラブとの間に緊張を起すことのないように成可く控え目に、他クラブの陰の力となつて助成するように、英語科・社会科を主体として活動を進めてきた。今後もそうありたいと思う。

なおユネスコ・クラブのあり方としては、その性格上校内クラブよりはむしろ渉外クラブとして他校に働きかけて、他校に国際理解と国際協力を育成するためのユネスコ・クラブを設立する気運を助成するように活動すべきであると考えている。

(完)